

科目名	現代ファイナンス論特講	担当者	コバヤシ 小林 ヒロユキ 博之	期間	通年	単位数	4
-----	-------------	-----	--------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	現代企業の経営において、キャッシュフロー、企業価値経営が強く求められるようになっている。では企業価値がどのように評価されるのか、キャッシュフローとは何なのか、企業経営に携わる者でも正しく理解していないケースが少なくない。現代ファイナンス論を履修し、現代社会の中で起こっている企業行動を、より深い（財務的な）切り口で見ることができるようになることを、本講義の目的とする。		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 ファイナンスに関する専門性を理解する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】 学修者がファイナンスに関する知識を習得することを通じ、その考え方を活用することで企業の経済活動を理解し、具体的なビジネスシーンに応じて使いこなせるようになることを目標とする。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学修項目：教材の精読、参考図書、新聞・メディア・企業公表資料などの閲覧・主体的学習 準備学習時間：教材精読のみであれば1日もあれば読めるが、内容を理解し、計算なども自らやってみることで身につくことを考えると、その3～5倍の時間は取りつつ、しっかり身に付けるだけの準備を行うことを期待する。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 学修者のレポートドラフトの作成、学修支援者によるコメント、指導を複数回やり取りすることを通じて、単にレポートを作成するだけでなくインタラクティブな学習を進めることとなる。媒体としてはメールでの意見交換を軸とする。</p> <p>【学修方略（LS）】 教科書、参考書による自習を軸とし、レポートのやり取りを通じた能動的方法により進める。学修者のレベルに応じたレポート指導を行うことにより、学習効率を最大限高める。</p> <p>その他、各自が教材以外の関連書籍を探し、新聞・ネットメディアなどの記事のほか、企業の公表資料などにもアクセスしていく必要。論文、民間シンクタンクのレポートなど幅広い情報源を活用することが望まれる。</p>		
スケジュール	<p>① レポートドラフトを提出し、講師との間で考え方の確認、交換を通じて学んでいくことが必要になるため、前後期とも各課題提出期限の1か月前までにはレポートドラフトを提出すること。</p> <p>② 受講開始後、課題へのアプローチ方法がわからず、早めの時期に課題提出ができないこともある。その場合には、効率的に学習に取り組むため、レポート作成に必要な質問をメールまたは添削システムを使って連絡することを受け付ける。レポート提出前に、課題取り組み方針のすり合わせを行うことを強く推奨する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	① 教材の内容を習得し、その考え方を踏まえた解答か ② 自分の独自の考えを、相手に伝わるように解答しているか ③ 教材以外の資料も活用して解答しているか（加点項目）
	平常評価	20%	① 最終提出までに複数回のレポートドラフトの交換ができていないか ② ドラフト提出期限（最終期限の1か月前）を遵守しているか
履修者への要望	グローバル経営（MBA）部門のコア5科目の一つであり、他の科目（グローバル経営戦略論特講、マーケティング論特講、人材マネジメント論特講）と合わせて履修することが望ましい。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： グロービス経営大学院 教材名： 「[新版] グロービス MBA ファイナンス」(ダイヤモンド社；2009年) ISBN：978-4-478-00876-8 2,800円＋税
	前期はファイナンス理論の基本的なフレームワークの整理を目指す。ファイナンス理論はビジネスシーンだけでなく新聞などを読むにあたって意外と多くの場面で使われているが、その一方で間違った理解に基づき使われているケースも多い。教材を使い正しく基本的な概念を習得する。
参考図書	山本一彦著「超入門 企業価値経営 実践コーポレートファイナンス」(中央経済社；2011年) ISBN：978-4-502-68260-5 2,600円＋税 グロービス著「実況ファイナンス教室」(PHP 研究所；2010年) ISBN：978-4-569-79199-9 1,400円＋税
履修上のポイント	教材はファイナンス論の基礎の習得を狙った。課題に対しては、基礎的な考えを習得したうえで、個別企業がとっている財務行動に興味を持てるようになってほしい。 ファイナンス分野になじみがない場合には、先に「超入門 企業価値経営」の通読を行うことを勧める。
レポート課題 1	事業の収益性を判断するために注目する必要があるキャッシュフロー(特にフリーキャッシュフロー)について、その概念を整理しなさい。その際、フリーキャッシュフローの各項目について説明するとともになぜこのように考えるものなのかを説明しなさい。 <b>留意点：</b> 教材(1)の第2章を参考にしながら、ファイナンス論を取り組むうえでの出発点となるキャッシュフローの考え方を確認してほしい。
レポート課題 2	事業を行う上では、リスクとリターンを評価することが求められる。ファイナンス理論におけるリスクとリターンの関係について求めなさい。 <b>留意点：</b> 教材(1)の第5章を参考にしながら、リスク・リターンの概念を確認する。その際に、個別株式のリスク・リターン評価の手法であるCAPM(Capital Asset Pricing Model)についての理解にも取り組んでほしい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： グロービス経営大学院 教材名： 「[新版] グロービス MBA ファイナンス」(ダイヤモンド社；2009年) ISBN：978-4-478-00876-8 2,800円＋税
	著者名： 手島直樹 教材名： 「まだ「ファイナンス理論」を使いますか?」(日本経済新聞出版社；2012年) ISBN：978-4-532-31829-1 1,800円＋税
	後期はファイナンス理論の基本的なフレームワークの整理を目指す。ファイナンス理論はビジネスシーンだけでなく、新聞などを読むうえでも多くの場面で使われているが、その一方で誤った理解に基づき使われているケースも多い。上期に引き続き、教材(1)を使い、基本的な概念を習得する。教材(2)は常識に捉われない「正しい使い方」が示される。
参考図書	砂川信幸、川北英隆、杉浦秀徳、佐藤淑子「経営戦略とコーポレートファイナンス」(日本経済新聞出版社、2013年) ISBN：978-4-532-13441-9 3,200円＋税 マッキンゼー・アンド・カンパニー/ティム・コラー他(本田桂子/鈴木一功訳) 「企業価値経営—コーポレートファイナンスの4つの原則」(ダイヤモンド社、2012年) ISBN：978-4-478-01798-2 2,400円＋税
履修上のポイント	「ファイナンス論」の履修目的は、実際の経済行動、企業行動の中で利用されている状態をイメージできることにある。教材は具体的な事例と理論の橋渡しをしている。各自、一歩踏み込んだレポート作成に取り組んでほしい。参考図書は、具体的にファイナンス論を活用する手法を学びたい学生のために示した。
レポート課題 1	会社全体の経済的価値を示す「企業価値」について、その考え方を確認したうえで、株価の理論値の計算の方法について述べなさい。 <b>留意点：</b> 教材(1)の第8章で示される考え方、計算方法について理解してほしい。また、その企業価値がM&Aを考える上で重要であり、買収戦略の成否の評価を分けることとなる点も理解してほしい。
レポート課題 2	教材(2)において筆者が提示している「理論と現実のギャップ」あるいは「誤解」に関して整理し、その誤解について、あなたはどうか考えるかを論述しなさい。 <b>留意点：</b> 必ずしも筆者と同じ意見である必要はない。むしろ、批判的な立場で考えを示すことが望ましいこともあるので、よく考えて取り組んでほしい。